

ミコアイサ（カモ科） 全長 42 センチ

3月上旬の大浦沼。

暖冬の影響でしょう、冬鳥のカモ類の姿は殆ど見えません。例年なら彼岸の 20 日頃には、白鳥やオナガガモ、マガモなどが水面を埋め尽くすほどでした。

つぶさに眺めてみると、とっくに北に向かったと思われたミコアイサがまだ残っていました。その数 20 羽程。なかなか警戒心の強い鳥で近づく事は難しいことから、距離を置いての観察です。



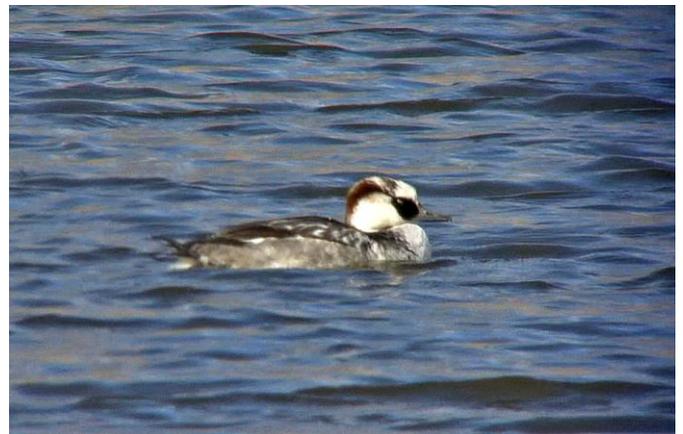
通称パンダガモ。よく似ています。

オスは大部分が白く、目の周囲が黒いのでパンダと似ています。

通称パンダガモと呼ばれるなど、人気があります。メスは頭上から後頭にかけて茶褐色で、地味に見えます。



左のオスと似てはいるが、少し違う。



日本に渡来する頃には、完全なエクリプスでない場合が多いそうです。

その中でオスとも似ているがメスでもない、変わった模様をした 1 羽が見つかった。オスとメスの、丁度中間の色合いである。

これはカモ類のオスが繁殖期を過ぎた後、一時的にメスのような地味な羽色になる状態で、「エクリプス」と呼ばれます。

見る機会の少ない鳥であることから、じっくりと時間をかけて撮影となった。大浦沼最後の冬鳥として、間もなく北に向かって飛び立って行くことでしょう。



右のメスに似ている。



右から2羽目がエクリプスで、右端のメスとよく似ています。